

- 第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スベキモノト認ムルトキハ地並ニ堅半ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムベシ
- 第十五條 道路橋梁下水ヲ毀損壅塞シ街路樹木ヲ代採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スベカラズ
- 第十六條 制札指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スベカラズ
- 第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スベカラズ
- 第十八條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クベカラズ
- 第十九條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムベカラズ
- 第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スベカラズ
- 第二十一條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃

臥スベカラズ

第二十二條 街路ニ於テ管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出スベカラズ

第二十三條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スベカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スベカラス

第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時マデニ掃除スベシ但午前八時後

日没マデノ降雪ハ降歐後直ニ掃除スベシ

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スベシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クベシ但シ冬季ハ風日ト雖モ午前九時午後三時後ハ水ヲ洒クベカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ注入スベカラズ

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スベシ其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クベカラズ

第三十條 街路ニ於テ便所ニアラザル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムベカラズ

第三十一條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃フベカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムベカラス

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ襪襪其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クベカラズ

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ヲクシテ疾驅スベカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スベカラズ但

其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラズ

第三十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハズ跡押ノミニテ運搬スベカラズ

第三十七條 末口ノ尖タル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スベシ

第三十八條 牛馬諸車ハ馬車道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スベシ

第三十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ轆キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スベカラズ

第四十條 車二輛以上ヲ連繫シテ轆クベカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラズ

第四十一條 牛車二頭以上ヲ連繫シテ牽クベカラズ但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラズ

第四十二條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避クベシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スベシ

第四十四條 前車除行シ後車疾行セシトスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スベシ

第四十五條 郵便用消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スベシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スベシ

第四十七條 馬車街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スベシ

第四十八條 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ

置クベカラズ

第四十九條 制止ヲ肯ンセズシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルベカラズ

第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルベキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スベカラズ

第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スベカラズ

第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フベカラス

第五十三條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スベカラズ

第五十四條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムベカラズ

第五十五條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スベカラズ

第五十六條 人道車馬車ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車馬道ヲ歩行スベカラズ但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラズ

(第六) ◎宿屋取締規則標準 (明治十九年六月四日内務省訓令第七號)

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フベシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クベシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲者

三 強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ爲シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 風俗ヲ紊ルベキ所爲アリト認メタル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其管轄廳ニ届出ヘシ

第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フベシ

第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スベカラズ

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケザルモ紛失セザル様注意スベシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラ

シムベカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フベシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄

警察署分署又ハ巡查交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ベシ

第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私檀ニ宿泊人ノ所有品ヲ押収又ハ受領スベカラズ

第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スベカラズ

第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スベシ

第二章 旅人泊

第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ

限ルベシ

第十五條 客室ニ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムベシ

第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚ヲ設クベシ

第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クベシ但階子ノ幅ハ四尺以上タルベシ

第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及バザル所ニ設ケ尿管ヲ受容スベキ部分ハ石敲キ陶器ヲ以テ構造スベシ

但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラズ

第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スベシ

第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルベカラズ但同行者ハ此限ニアラズ

第二十一條 客室ノ番號并ニ定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スベシ

第二十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スベカラズ

第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ベシ

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賄料座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルベシ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢并下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署又ハ分署ニ着出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ所持スベシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ

亦之ニ適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲示スベシ

第二十九條 下宿人他へ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不明ナルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ベシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スベキモノトス

第三十一條 宿泊人滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クベシ

第三十二條 宿泊届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フ

(第七) ◎石油取締規則 (明治十六年二月十五日布告第六號)

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十

度〔華氏八十六度〕以上ノ温度ニ達セザレバ發焔セザルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焔スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療制藥調劑及物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳〔東京府下ハ警視廳〕ノ許可ヲ受クベシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クベシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムベシ

石油ハ検査済ノ証アルモノニアラザレバ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラズ

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ限ルハ第一種ノ石油五

石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルベシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳〔東京府下ハ警視廳〕ノ認可ヲ受クベシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スベシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マデトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スベシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クベカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(第八) ◎ 賣藥規則 (明治十年一月二十日布告第七號)

第一章

第一條 此規則ニ稱スル賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴濟散藥表藥等
ヲ調製シ効能書ヲ付シ販賣スルモノヲ云フ(明治十年第八十九號布告ヲ
以テ改正)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族
籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クベシ(明治十一年第二十
七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下ハ字ヲ削ル)

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所
毎ニ免許鑑札ヲ受クベシ(明治十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ
拘ハラズ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥受取締ニ關係ス

ルモノハ之ヲ許サ、ルベシ(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ內務省ヲ(管
轄廳)ト改メ(毒藥)ノ下(劇藥)ノ二字ヲ加フ)

第四條 (第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セン
ト欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クベシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍
氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結
ヒタル約定書トヲ添へ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受クベシ(明治十
年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第廿七號布告ヲ以テ(鑑札ヲ受)ノ下十
三字ヲ削リ(ク)ノ一字ヲ加フ)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クベシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シ
テ行商ヲ爲サシメント欲スルハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ
願受ケ行商スル時ハ必ス所持スベシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ日ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クベシ〔明治十九年十一月二十五日勅令第七十二號ヲ以テ(營業免許期限ヲ廢ス)〕

第九條 (第八條ニ記シタル期限中)第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ第一期ノ初月トナスベシ

第十條 免許(期限)内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルアルベシ〔明治十一年第二十七號布告ヲ以テ(有毒)ヲ(有害)ニ改ム〕

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔

細ヲ詳記シテ管轄廳へ届出再ヒ之ヲ願受クベシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フベシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フベシ〔明治十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正〕

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スベシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スベシ〔明治十四年第二十六號布告ヲ以テ(賣藥營業者)ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字ヲ削リ(右鑑札料)ノ次(賣藥受賣鑑札料)及賣藥行商鑑札料)ノ二項ヲ削ル〕

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付

一ケ年

金二圓

右鑑札料

同上

一枚

金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ

金并鑑札料ヲ納ムヘシ〔明治十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス〕

第十七條 水火盜難ニ依リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其

鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後

半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘ

シ〔明治十一年第四號布告(第四百七十七ノ一項)ヲ以テ税金納期ヲ改正ス〕

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業

ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金

ヲ納メシムヘシ〔明治十一年第二十七號布告ヲ以テ(有毒)ヲ(有害)ト改ム〕

第三章

二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者

及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セ

シムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ

請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ

其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書ヲ改更シ

又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑

札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰

金ヲ科ス

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣ニ藥

劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ

賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科

スヘシ(明治十四年第十六號布告ヲ以テ(營業スル者)ノ下卅八字ヲ追加ス)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スルモノハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

(一) 賣藥取扱手續(明治十一年一月八日內務省達乙第七十號)

(二) 賣藥營業類書式(明治八年當省乙第九十八號達離形ニ照準スヘシ)

○賣藥改正願

府 大小區郡村番地
縣

營業人 氏 名

一方名

藥品

製法

用法服量

功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々ノ廉左之通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年 月 日

願人 氏 名 印

區長 或
戶長ハ醫務取

氏 名 印

管轄廳長官氏名殿

○賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同

右營業人

府大小區國郡村番地
族籍 氏 名

但營業者異ナレハ假令一方タリモ必ス各營業者ノ族籍住所
氏名ナ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ
右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許之御指令寫並
約定書相添此段奉願候也

年 月 日

請賣願人 族籍 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛

府大小區國郡村番地

一方名

○賣藥營業鑑札或請受鑑札遺失ニ付御書替願

府大小區國郡村番地

賣藥營業人 族籍 氏 名

右者何年月日御下渡被下候鑑札何年月日何々ノ事故ニテ遺失仕候
間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

賣藥營業人 氏 名 印
或ハ請受人 氏 名 印
區長或醫務取締 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛

○賣藥營業鑑札讓渡願

府大小區國郡村番地

營業人 氏 名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アルトキハ上ノ例ニ從テ連署スヘシ

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般縣府族籍何某へ示談ノ上讓渡申度依テ所持之鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

府大小區國郡村町番地

賣藥鑑札主族籍氏名印

同

讓受人同氏名印

鑑札主區長或ハ醫務取締氏名印

所住ノ戶長或ハ醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

(第九) ◎藥品營業并藥品取扱規則 (明治二十二年三月十六日公布法律第十號)

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ

内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ二サンチグラムヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名年齢藥名分量用法用量處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑シキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコト

ヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別用法用量年月日患者氏名藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ目製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ニ備ヘタル場

所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタルモノヨリ其藥名量數使用ノ目的年月日及住所氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非ザレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要ス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥師商製藥者タルノ證明書ヲ

以テ毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ於テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十三條第十四條第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ

但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコ

トヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行

ノ日ヨリ廢止ス

(一) 藥師試驗規則〔明治二十二年三月二十七日內務省令第三號〕

(二) 藥品巡視規則〔全上第四號〕

(三) 毒藥劇藥ノ品目〔全上第五號〕

(第七) ◎ 土地収用法

土地収用法

第一章

總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必用アルキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ収用又ハ使用スルヲ得
土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但シ一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之レヲ収用スベシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルヲ得但シ國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一 國防其他兵事ニ要スル土地

二 政府府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三 官立公立ノ學校病院其他學藝及ヒ慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標識及ヒ測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造ノ用地

六 防火及水害豫防并檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ収用又ハ使用セントスルノ必要アルキハ起業者ハ工事計畫并圖面ヲ製シ地方長官ニ差出ス可シ地方長官之レヲ審査シ內務大臣ニ具申シ內務大臣ハ之レヲ閣議ニ提出ス可シ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルキハ主務大臣ハ工事計畫并圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之レヲ閣議ニ提出スベシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルキハ官扱ヲ以テ起業者及ヒ起業地并工事ノ種類ヲ公告スベシ

國防上ノ工事ニ關シテ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及ヒ關係人ニ通知スベシ

第二章 土地収用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ル可キ場所及ヒ期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知ス可シ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之レヲ補償ス可シ
若シ補償ニ付協議調ハサルキハ市町村長一人ノ鑑定人ヲ選ヒ立會

ハシメ其金額ヲ定ムベシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受ク可シ但政府ノ起業ニ係ルキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知ス可シ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土批所有者及ヒ關係人ニ通知ス可シ起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲スルハ其場所及ヒ期日ヲ各所有者ニ通知ス可シ但損失ヲ補償スルキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及ヒ収用又ハ使用スベキ土地ノ區域確定シタルキハ起業者ハ其仕様書并圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及ヒ關係人ニ示シ協議ヲ遂ク可シ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及ヒ圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前
 項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地収用審査委員會ノ
 裁決ヲ請フ可シ但政府ノ起業ニ係ルキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地
 方長官ニ送付シ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ求ム可シ
 一 収用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目并隣地ノ番號地目
 二 収用又ハ使用スベキ土地ノ反別若シ建物木石作物等アルキハ其
 建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ反
 別建坪ヲ併セ記スベシ
 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
 四 収用又ハ使用ノ時期
 五 損失補償金額并其内譯但収用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木
 石作物等ノ移轉ヲ請求スルキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ請取リタルキハ之レヲ市町村長ニ下

付ス可シ

市町村長ハ之レヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦
 覽ニ供スル旨ヲ公告ス可シ且起業者ヲシテ特ニ所有者及ヒ關係人
 ニ其者ヲ通知セシム可シ

前項ノ公告ニハ土地収用審査委員會ヲ開クヘキ場所期日所有者及
 關係人ヨリ意見書ヲ差出ス可キ場所ヲ記載ス可シ

第十條 収用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及ヒ關係人ハ前條公告ノ
 日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出ス可シ若シ其期限ヲ過ルキハ意
 見ヲ申立ルコト得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地
 収用審査委員會ヲ開クベシ

土地収用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨ
 リ差出シタル意見書ノ當否土地収用又ハ使用ノ區域収用又ハ使用

ノ時期并補償ノ金額ヲ裁決スベシ
補償ノ金額ヲ裁決スルルハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書
ノ當否ヲ調査セシム可シ

第十二條 土地収用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ
之レヲ報告ス可シ但其期限内ニ裁決スルヲ得サル事由アルルハ
地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延ハスヲ得

第十三條 地方長官土地収用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルル
ハ市町村長ヲシテ之レヲ起業者及ヒ所有者并關係人ニ達セシムベ
シ

第十四條 地方長官裁決ノ達ヲ受ケタルルハ起業者ハ補償金ヲ所有
者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルベシ但工事
仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニア
ラス

第十五條 土地収用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル
者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコ
トヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ着手スルコト
ヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審補償金額ニ關スル裁決ニ服セ
サル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得但此場合ニ於テハ起業者其工事ノ着手ヲ猶豫セサルヲ
得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルル其登記ト俱ニ該土地ハ第三十
五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入
ヲ求ムベシ

第三章 損失補償

第十七條 収用又ハ使用スベキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係
人ヲシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之レヲ定ム可シ

第十八條 収用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來タシタル場合ニ於テハ収用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スベキ事實アルキハ併セテ其損失ヲ補償ス可シ
 土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來タスルハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 収用又ハ使用ノ爲メ所有者及ヒ關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁墻柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償ス可シ

第二十條 収用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ収用ヲ請求スルヲ得

収用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來タス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部并建物ニ屬スル土地全部ノ収用ヲ請求スルヲ得

第二十一條 収用又ハ使用ノ土地ニ付屬スル建物木石等ハ併セテ之レヲ収用又ハ使用シ作物ハ之レヲ収用スベシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルキハ移轉料ヲ補償ス可シ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ヲニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物ヲ増加シタル實蹟アルキハ之レヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ収用又ハ使用ノ日マテニ之レヲ取拂ハシム可シ

第二十三條 土地ト木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其収用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルヲ得ルモノニ限り各別ニ之レヲ補償スヘシ

書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ并テ拂渡スベシ

第二十四條 補償金ノ受取人之ヲ受取ルヲ拒ムルハ起業者ハ之レ
ヲ地方廳ニ預置クベシ

第二十五條 工事ノ仕様并補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ収用
又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人之
カ爲メニ損失ヲ蒙リタルルハ其補償金ヲ請求スルヲ得収用又ハ
使用ノ時期ヲ過テ仍ホ土地ヲ収用又ハ使用セサル時モ亦同シ
若シ補償ニ付キ協議調ハサルルハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 収用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見
シタルルハ所有者及ヒ關係人ハ其収用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以
内ニ其補償金ヲ請求スルヲ得

若シ補償ニ付協議調ハサルルハ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ請フ
可シ

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事

ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之レヲ認定シ直ニ土地ヲ収用又ハ使
用セシムルヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之レ
ヲ行フ可シ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鉄道及埠頭ノ工事ニ供スル土地砂礫
ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之レヲ
収用スルヲ得

第四章 土地収用審査委員

第二十九條 土地収用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地
方長官ヲ會長トス地方長官故障アルルハ上席高等官之レヲ代理ス
工事仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ専門技術家
ヲ委員中ニ加フ可シ

第三十條 起業者及収用又ハ使用スベキ土地ノ所有者及ヒ關係人并
其父子兄弟ハ土地収用審査委員會ノ會議ニ與ルヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルキハ補欠員ノ中
ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地収用審査委員ノ選定スル鑑定人并第六條ノ鑑定人
ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル
第三十二條 土地収用審査委員會ハ起業者并所有者及關係人ヲ呼出
スヲ得

第三十三條 土地収用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非レバ
開會スルヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 収用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地収用審査委員會
并第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所
有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ収用シタル土
地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所
有者ニ通知ス可シ若シ其所在不分明ナルキハ官報及其地方ノ新聞
紙ヲ以テ三回以上公告ス可シ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之レヲ買戻スヲ得
第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所
有者何等ノ申込ヲ爲サ、ルキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他
人ニ土地ヲ賣却讓與シタルキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ
以テ其土地ヲ買戻スヲ得

第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ
収用又ハ収用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地収用審査委員會ノ爲スベキ

事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之レヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スベキ事務ハ區戸長之レヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スベキ事務ハ島司之レヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

(第十一) ◎ 酒造稅則 (明治十三年九月二十七日布告第四十號)

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管轄廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケベシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ベシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他十五年第十七號布告ヲ以テ(燒)酎ノ下六字ヲ加フ

三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ種類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムベシ其額左ノ如シ(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付

金三十圓

酒類造石稅

- 一類一石ニ付
- 二類一石ニ付
- 三類一石ニ付

- 金四圓
- 金五圓
- 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレバ免許セス

〔十五年第六十一號布告ヲ以テ本項以下追加〕

清酒

百石

濁酒

拾石

一類〔清酒濁酒〕二類三類

五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムベシ〔十五年第十七號布告ヲ以テ本條ヲ削除シ同年

第六十一號布告ヲ以テ更ニ追加ス〕

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ書換ヲ請フベシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管轄廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フベシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムベシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムベシ

〔十五年第十七號布告ヲ以テ(第一期中ヨリ)ノ下(三月三十一日)ヲ(二月中)(第二期四月)ヲ(三月)(六月中)ト更正ス〕

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 十月三十一日限

〔十九年十二月十六日勅令第七十九號ヲ以テ九月三十日ヲ十月三十一日ト改ム〕

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管轄廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管轄廳ヘ申出檢査ヲ受

ケ現石數ニ付納稅スベシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項但書追加ス)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管轄廳ヘ届出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スベシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムベシ

第十三條 檢査未濟ノ酒類ヘ檢査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムベシ

第十四條 檢査未濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ種類ニ變製第一章第二條中第一類ノ酒ヲ二類ニ變製スル類スル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ納ムベシ

第十五條 檢査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢査濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムベシ

但變製ノ節ハ必ス管轄廳ヘ届出テ檢査ヲ受クベシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢査ヲ受クベシ

第十六條 皆造期限前ニ就テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管轄廳ヘ申出檢査ヲ受クベシ

第十七條 前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムベシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムベシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もど其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等檢査ヲ受クベシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ其賣買讓

與貸借ハ其時々管廳へ届出ツベシ〔十六年第十六號布告ヲ以テ全條改正〕
 造酒着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械
 ナ酒造場外へ移スヲ許サズ
 酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ
 納期ニ拘ハラヌ檢査濟ニ係ル造石稅ヲ完納スベシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及酒もどヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣
 渡スハ此限ニ非ス〔十五年第十七號布告ヲ以テ但書追加〕

第二十二條 他ノ委托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル
 者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス〔十五年第六
 十一號布告ヲ以テ全條改正〕

第二十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ

消糜スルヲ許サス〔同上〕

檢査既濟ノ酒類ハ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒〔搾リ〕蒸溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用
 スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出テ再封ヲ
 請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目
 石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘ
 シ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許
鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ揭示スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及製造諸
器械トモ没収シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其
石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴ス
ヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ
之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税則相當ノ金額ヲ科スヘシ
第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與
シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ
金額ヲ科スヘシ(同上)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ没収シ其酒類ノ石數ニ
相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第十七號布告ヲ以テ但書
ヲ刪除シ同年六十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル
造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條
ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第
六十一號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十六年第二十六號布告ヲ以テ(第十四條)ノ下六
字ヲ削除ス)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者
ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加ス)
第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ

仍ホ其器械ヲ沒収ス第二項ヲ犯シタ者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒収ス〔十六年第廿六號布告本項改正〕

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒収ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スベシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒収ス〔十五年第六十一號布告ヲ以テ本條以下ヲ追加〕

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ罰ス

(一) 酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準據

ス〔明治十六年十二月十八日第四十二號布告〕

(二) 酒造稅則附則〔明治十九年八月二日公布勅令第六十號〕

第一條 自家用料ノ酒類〔飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ〕ヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳へ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムベシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

- 一 酒類受〔備〕賣營業者
- 一 飲食店又ハ旅籠屋營業者
- 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ二期製造高一石〔二種以上製造スル

者ハ其總石ノ數ヲ合算スルヲ超フルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造又ハ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ種類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ

三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者

ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

(三) 沖繩縣酒類出港稅則(明治二十一年三月二十二日公布勅令第十二號)

(四) 輸出酒類戻稅規則(明治二十一年七月十二日公布勅令第五十四號)

(五) 東京府區内清酒輸入規則ヲ制定ス(明治二十一年二月二十日公布勅令第八十八號)

(六) 自家用料酒類製造者心得ヲ定ム(明治十九年八月二十四日大藏省令第二十七號)

(第十二) ◎ 醫麴營業稅則 (明治十三年九月二十七日布告第四十一號)

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醫麴(釀造種類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管

轉應ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムベシ

暫廻營業稅

金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムベシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ベシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ
暫廻及仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スベシ〔十五年第六十二號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス〕

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フベシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フベシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ暫廻賣捌ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス暫廻ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅ニ倍ノ金額ヲ徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

第十二條 醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類〔醫麴ヲ除ク〕ヲ製造スルヲ許サス〔同上本條以下四條ヲ追加ス〕

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

(第十三) ◎ 煙草稅則 (明治二十二年四月七日公布勅令第二十號)

煙草製造人 葉煙草ヲ受買テ刻煙草又ハ卷烟草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘン但營業者未丁年瘋癩白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ証約スル爲メ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ
 証約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ証約金額ヲ記入スルモノトス

証約金 營業ノ場一箇所毎ニ五十圓以上五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ証約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ証約金ノ一部若クハ全部ヲ徵収スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付 金二十錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付 金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付 金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年 金十五圓

煙草仲買營業稅 全 金十五圓

煙草小賣營業稅 全 金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ニ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他証憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ハ賣渡貸讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受ケ借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受ケ借受讓受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ製造ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコト

ヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場會庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脱稅ヲ謀リ又ハ脱稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡腫ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキ

ハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ
第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル

卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ變置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

(一)煙草稅則施行細則〔明治二十一年四月二十六日大藏省令第三號〕

(二)煙草稅則取扱方要領〔全年全月二十七日大藏省訓令第二十二號〕

(三)煙草稅則第三條ノ証約狀調製手續〔全年全月卅日大藏省告示第五十八號〕

(第十四) ◎證券印稅規則 (明治十七年五月一日布告第十一號)

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則

ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一 當座預リ金引出小切手	印稅	五厘
一 金高記載ナキ約定証文	同	壹錢
一 跡式認証文	同	壹錢
一 期限ヲ定メサル預リ金証文	同	壹錢
一 雇人請合狀	同	壹錢
一 金高記載ナキ諸物品借用証文	同	壹錢
一 諸物品切手	同	壹錢

- 一 賣買仕切書 印稅 壹錢
- 一 諸會社株券 同 壹錢
- 一 諸物品通帳 一年以内
二冊付 同 壹錢
- 一 結社約定書 同 壹錢
- 一 委任狀 同 五厘
- 一 遺物証文 同 壹錢
- 一 讓共証文 同 壹錢
- 一 耕地小作証文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ証文 同 壹錢
- 一 地所預リ証文 同 壹錢
- 一 家尾預リ証文 同 壹錢
- 一 借地証文 同 壹錢
- 一 借家証文 同 壹錢
- 一 保險証文 同 壹錢
- 一 送金手形 同 壹錢

- 一 金錢判取帳 同 貳拾錢
- 但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル証書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
- 左ニ掲クル所ノ証書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スベシ
- 一 營業ニ關スル送狀 印稅 壹錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢
- 右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スベシ

第二類

左ニ掲クル所ノ証書ハ金高ノ多寡ニ從ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スベシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フベシ

一金錢借用証		
一金高記載アル諸物品預リ証文		
一諸物品賣買証文		
一金高記載諸般ノ契約証書		
一〔地所〕賣買証文		
一〔家屋〕賣買証文		
一金高記載アル諸物品借用証文		
一金錢定期預リ証文		
金高一圓以上貳拾圓未滿	印稅	壹錢
金高貳拾圓以上五拾圓未滿	同	貳錢
金高五拾圓以上百圓未滿	同	四錢
金高百圓以上百五拾圓未滿	同	六錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿	同	八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿	同	拾壹錢

金高三百圓以上四百圓未滿	同	拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿	同	貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿	同	貳拾六錢
金高八百圓以上千圓未滿	同	三拾貳錢
金高千圓以上千四百圓未滿	同	三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿	同	四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿	同	五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿	同	六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿	同	七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿	同	八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿	同	九拾錢
金高四千圓以上	同	壹圓

右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ從ヒ下ニ定ムル所

ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅 四 錢

金高百圓以上總テ諸証書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ証文

金高壹圓以上貳拾圓未滿

印稅 壹 錢

一質物預リ書札

金高貳拾圓以上

同 貳 錢

右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ

印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

同 貳 錢

金高百圓以上

同 四 錢

一爲替手形 一荷爲替手形 一約束手形

金高五拾圓未滿

同 壹 錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同 貳 錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同 四 錢

金高二百圓以上五百圓未滿

同 八 錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 拾五 錢

金高千圓以上貳千圓未滿

同 貳拾五 錢

金高貳千圓以上

同 五拾 錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ証書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱

ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第四條 印紙ヲ貼用スベキ証書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙

ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セズ但處罰ヲ受クル後印

紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラズ

第五條 印紙ハ証書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ証書ハ授受ノ前帳簿

ハ使用ノ前ニ貼用シ証書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ証書帳

簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スベシ

第六條 印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ズ

第八條 印紙ヲ貼用スベキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルベシ

第九條 左ニ掲グル所ノ証書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス証書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル証書

一(國庫金取扱所)又ハ爲替方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當証書

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ(國庫金取扱所)又ハ爲替方

ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付(國庫金取扱所)又ハ爲替方ヨリ納人へ差出ス請取書
一罹災救助金献金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス証書

第十條 第二項ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ビ使用期限紙數ヲ記載スベシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スベシ

第十一條 証書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ吾相當ノ印紙ヲ用スベシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クベシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡

キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ビ増加シタル紙數ヲ記載スベシ

第十五條 証書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ負數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十六條 取換セ証書ハ双方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十七條 証書ニ副証書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本証書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後証書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スベキ証書帳簿ニ之ヲ貼用セズ若クハ貼用不足スルモノ及ビ手形用紙ヲ用ヒズ若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒ

タルモノハ脱稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其証書帳簿ヲ受取タルモノモ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據リ消印ヲ爲サズ又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其証書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル証書帳簿ニ請人証人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ証書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ビ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ビ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ビ賣得金ヲ沒収シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不諭罪及ビ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

(一)証券印紙及手形用紙ノ種類ヲ定ム(十七年五月一日太政官布達第十二號)

(二)証書帳簿印紙貼用ノ様式(十七年五月十日大藏省告示第五十六號)

(三)當座預引出小切手押印出願及納稅手續ヲ定ム(十七年六月十八日大藏省告示第七十五號)

(第十五) ◎ 車 稅 規 則 (明治八年二月二十日布告第二十七號)

第一則

- 一 馬車貳匹立以上 一箇年稅金三圓
- 一 同 一匹立 一箇年稅金貳圓

一 荷積馬車 一箇年稅金壹圓

一 人力車貳人乘 一箇年稅金貳圓

一 同 一人乘 一箇年稅金壹圓

一 牛車 一箇年稅金壹圓

一 荷積大七八車 一箇年稅金壹圓

一 荷積中小車 但大六以下 一箇年稅金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノモノハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄
應へ可相納事〔十一年第四號布告ニ依リ消滅ニ係ルヲ以テ但書ヲ除ク〕

第五則

一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルベキ事

第六則

一諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍料料
タルベキ事

〔一〕船軍賣藥牛馬賣買等税金納期ヲ定ム〔十一年二月十五日布告第四號〕

〔二〕車稅規則へ附則ヲ追加ス〔二十一年二月十五日公布勅令第七號〕

第十六 ◎賣藥印紙稅則 (明治十五年十月二十七日布告第五十一號)

第一條 賣藥ニハ必ズ定價ヲ記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割
合相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅 壹厘
一同 貳錢迄	同 貳厘
一同 三錢迄	同 三厘
一同 五錢迄	同 五厘
一同 拾錢迄	同 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹 錢	淡 黒 色
貳 厘	青 色
三 厘	黃 色
五 厘	茶 褐 色
一 錢	赭 色

貳	錢	綠
三	錢	濃青
四	錢	橙黃
五	錢	紫
拾	錢	深紅

貳	錢	綠
三	錢	濃青
四	錢	橙黃
五	錢	紫
拾	錢	深紅

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スベシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スベシ

第四條 賣買印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 賣藥者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣

シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知り之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍其品ヲ沒收ス

(第十七) ◎醬油稅則 (明治二十一年六月十八日公布勅令第四十七號)

第一條 醬油〔油ヲ併稱ス〕製造ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クベシ但製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツベシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造稅ヲ納ムベシ
營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅

醬油諸味一石ニ付
溜ハ製成一石ニ付

金一圓
金一圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムベシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキハ其半年分ノ營業稅ヲ納ムベシ

第四條 石造稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムベシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムベシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マデノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マデノ査定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マデノ査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ

管應ニ申出造石數ノ査定ヲ受クベシ

造石數査定濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クベシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管應

ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムベシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡ス場合ニ限り管應ニ申出檢査ヲ受置キ其買受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造所二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管應ニ申出檢査ヲ受クベシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造

場ヲ貸渡スコトヲ得ズ

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非ザレバ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造外ニ移スコトヲ得ズ

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ズ但第六條但書ノ場合ハ此限ニアラズ

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカラザル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スベシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入關稅關ノ陸揚免狀若クハ其他証據トナルベキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請

求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルベシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スベシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フベシ

第十五條 醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ズ

第十六條 醬油受賣ヲ爲スモノハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ズ其同居ノ者モ亦同シ

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルベシ但當該官吏ハ其証票ヲ携帶スベシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其証票ヲ携帶スベシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケズシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其一油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者若クハ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此ノ稅則ヲ犯シ沒收スベキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消廢シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡腫ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分
此税則ヲ施行セズ但此税則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者
ハ此税則ニ從フベシ

第二十九條 此税則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第
一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ベシ

〔醬油税則細則〔明治二十一年八月三日大藏省令第九號〕

(第十八) ◎菓子税則 (明治十八年五月八日布告第十一號)

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

- 菓子製造人 〔菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ〕
- 菓子卸賣人 〔菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡スモノヲ云フ〕
- 菓子小賣人 〔菓子ヲ需用者ニ賣渡ス者ヲ云フ〕

第三條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受ケベシ

シ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業
ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受ケベシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サン
トスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携
帶スベシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムベシ

營業鑑札料	一枚ニ付	金貳拾錢
仕入鑑札料	同	金拾錢
出賣鑑札料	同	金拾錢

第五條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スベシ

第六條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムベシ但二種以上
ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スベシ

製造營業稅

小賣營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	全	金拾五圓
雇人三人以上アル者	全	金拾圓
雇人二人以上アル者	全	金五圓
雇人一人アル者	全	金三圓
雇人ナキ者	全	金壹圓

小賣營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	全	金拾五圓
雇人三人以上アル者	全	金拾圓
雇人二人以上アル者	全	金五圓
雇人一人アル者	全	金三圓

製造營業稅

小賣營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金七圓
雇人二人アル者	全	金三圓
雇人一人アル者	全	金貳圓
雇人ナキ者	全	金壹圓

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第八條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分子前半分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムベシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分營業稅ヲ納ムベシ

第九條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ

雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ヲ據リ定ムベシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムベシ

第十條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムベシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十日迄賣上高ニ係ル 翌年二月二十八日限

第十一條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ベシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ベシ

第十二條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ビ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ベシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラズ

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十三條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ビ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルベシ

第十四條 (主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ証票ヲ携帶スベシ)(同條勅令ヲ以テ本條ニ削除ス)

第十五條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケズシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及製造器械ヲ沒収ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十六條 第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ十五條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(同上勅令ヲ以テ(又ハ第十四條ノ帳簿)ノ九字ヲ削除シ(又ハ十五條ノ檢査ヲ拒ミ)ノ十二字ヲ加フ)

第十七條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セズシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタ

ル者及ビ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ビ

第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上勅令ヲ以テ(及)以下十八字ヲ削除ス)

第十九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第二十條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

(第十九) ◎ 所得稅法 (明治二十年三月二十三日公布敕令第五號)

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅依ニ依テ所得稅ヲ納ムベシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據リ算出スベシ

第一 公債証書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル証券ノ利子營業ニアラサル貸高預金ノ利子株式ノ利益配當金官私ヨリ受ケタル俸給手當金年金恩給金及割賦賞與ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除ク外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應ジ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅地方稅區町村費儲蓄金製造品ノ原質物代價販賣品ノ原價種代肥料營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料修繕料雇人給料負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出スベシ但シ

所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スベシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級

稅率

第一等 所得金高三萬圓以上 百分ノ三

第二等 所得金高貳萬圓以上 百分ノ二半

第三等 所得金高壹萬圓以上 百分ノ二

第四等 所得金高壹千圓以上 百分ノ一半

第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムベシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムベキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マデニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ベシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調查委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フベシ
調查委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ノ辭スルコトヲ得ズ

第八條 調查委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選舉人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ズ同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルヲ得ズ

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互撰セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スベシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ハ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之

ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スベシ

第十四條 郡區長ハ納稅ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スベシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニ非レバ會議ヲ開クコトヲ得ズ會議ハ出席ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ズ

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スベシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フベシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其証憑トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其稅金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據リ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此ノ稅法ニ關シ調査上必

要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニル係事件ヲ他漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免除スヘシ但既納ノ稅金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シテ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六第ノ届出ヲ爲サル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重
數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道沖繩縣及東京府管廳小笠原島伊豆七島ニ於テハ官府ヨ
リ受クル俸給手當年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セズ
(一)所得稅施行細則〔明治二十五年五月五日大藏省令第八號〕

(第二十) ◎地方稅規則 (明治十三年四月八日布告第十六號)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 地租三分ノ一以內〔十三年第四十八號布告ヲ以テ五分
ノ一トアルヲ三分ノ一ト改ム〕
- 一 營業稅並ニ雜種稅
- 一 戶數割稅

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム〔十五年第二
號布告ヲ以テ(種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削除〕

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スベキ費目左ノ如シ〔十五年第二號布告ヲ以
テ全條ヲ改正ス〕

- 一 警察費
- 一 警察廳舍建築修繕費
- 一 土木費
- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費
- 一 區町村教育補助費
- 一 郡區廳舍建築修繕費

- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 教育費
- 一 洲役場及難破船諸費
- 一 諸達書及揭示諸費
- 一 勸業費
- 一 戶長以下給料旅費〔十七年第十三號布告ヲ以テ改正〕
- 一 地方稅取扱費〔府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲
換手數料現金遞送等ノ費用〕
- 一 府縣廳舍建築修繕費
- 一 府縣監獄費
- 一 府縣監獄建築修繕費
- 一 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
- 一 豫備費〔豫備外ニ生シタル事件ノ費途〔十五年第六十九號
及豫算ノ臨時不足ニ充ツ者〕布告ヲ以テ改正〕
- 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府

知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月マテチ一週年度トナシ府知事縣令前年十月マテニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ〔十七年廿九號布告ヲ以テ本項ヲ改正シ十九年度ヨリ施行セシム〕

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ決議ヲ取り府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得〔十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加〕

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツル得サル天災時變ノ費用豫備ヲ以テ給足セサルモノヲ云別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務及大藏卿ニ報告スベシ〔十四年五號布告ヲ以テ未文ヲ削除ス〕

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵収スルコトヲ得〔十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加〕

第六條 地方稅徵収ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムベシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計算シ精算帳及計算表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スベシ〔十四年第五號布告ヲ以テ全條改正〕

第八條 〔同上布告ヲ以テ削除ス〕

第九條 嶋嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條 〔十三年第二十六號布告ヲ以テ追加シ十四年第八號布告ヲ以テ廢止〕

〔一〕營業稅雜種稅ノ種類及制限〔十三年四月八日布告第十七號〕

〔二〕地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件〔二十年一月五日公布勅令第五十六號〕

現 行 條 例 規 則 全 書 畢

明治廿三年四月三十日印刷
明治廿三年五月五日出版

正價五拾錢

著者

京都府士族

岡山 信夫

京都市堺町通り松原下ル
鍛冶屋町第二十八番戸

發行者

京都府平民

飯田 壽十郎

京都市寺町通り五條北入
西橋詰町第六十一番戸

印刷者

京都府平民

山本 留吉

京都市油小路御前通下ル
玉本町第五番戸寄留

發兌元

京都市寺町通五條北入

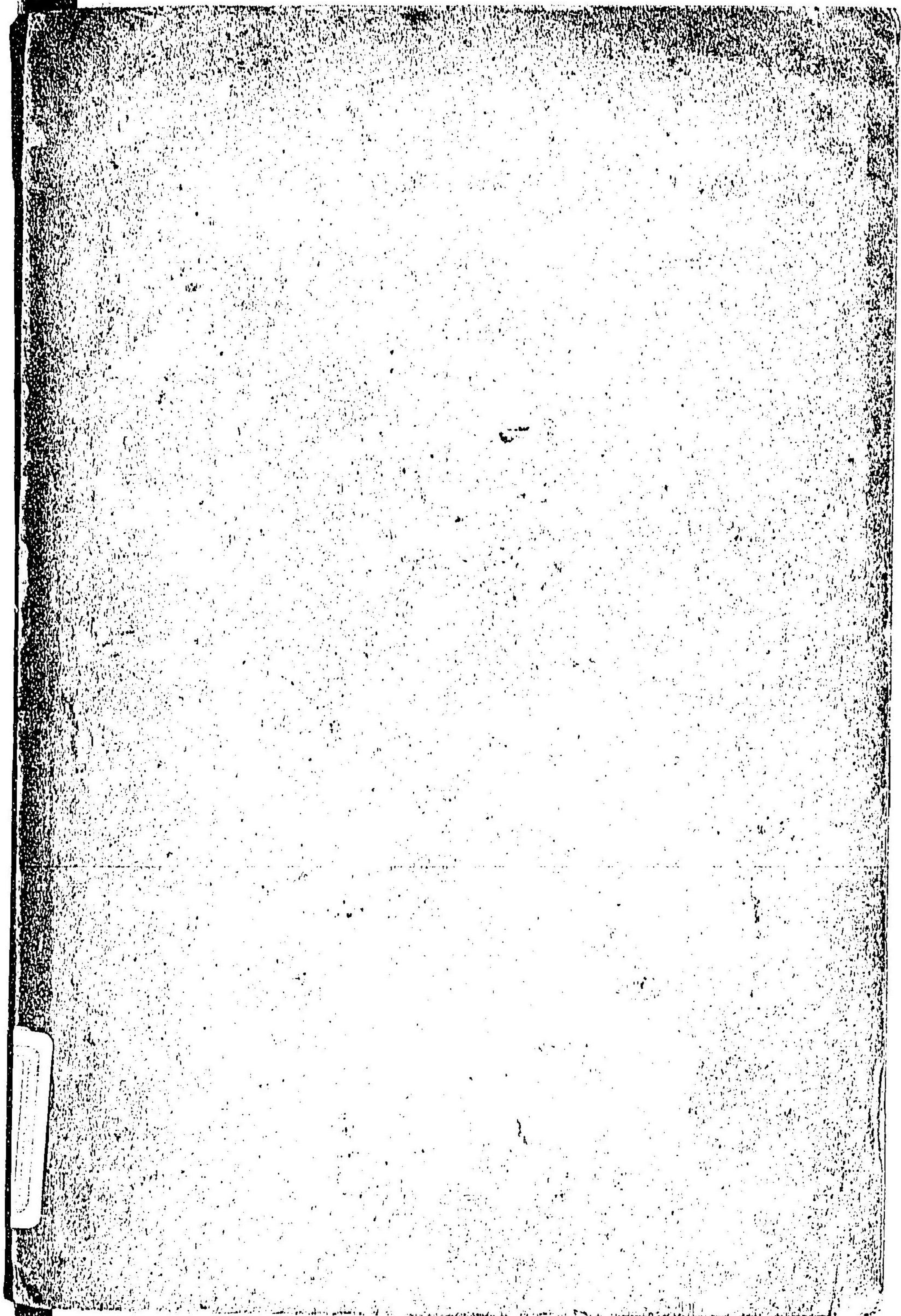
飯田 信文堂

大 販 賣 所

東京銀座四丁目	博 開 社
大坂本町四丁目	岡 島 眞 七
全備後町四丁目	博 開 分 社
京都佛光寺通	東 枝 律 書 房
全 寺町四條北入	田 中 治 兵 衛
大津上京町	澤 一 二 郎
彦根大工町	新 々 堂
丹波船岡	佐 藤 清 進 堂
廣島大手筋	早 速 社
大坂心齋橋筋	青 木 嵩 山 堂
東京本石町	博文館

販 賣 所

京都寺町松原	改 進 堂
全 寺町御池	川 勝 支 店
全 三條御幸町	山 中 勘 次 郎
全 寺町三條上ル	清 水 正 文 堂
全 東洞院三條	村 上 勘 兵 衛
全 烏丸今出川上ル	近 藤 王 祥 堂
東京木挽町一丁目	萬 字 堂
全 三拾間堀	長 明 堂
大津	小 川 書 房
丹波福知山	文 進 堂
伏見紺屋町	北 本 新 開 舖
橋本驛	吉 井 勇 次 郎
越中富山	中 田 書 店
京都三條寺町西	石 田 新 開 舖
全 京極	下 村 書 店
全 四條繩手	林 書 店
全 寺町二條下ル	北 川 書 房
全 竹田村	梅 原 支 店
	廣 瀬 清 七



160
1215

禁電子式複写

岡山信夫編纂

現行改正條例規則全書

京都信文堂藏版

030913-000-3

CZ-5-0131

現行改正條例規則全書

岡山 信夫/編

M23

BBC-0233

